

銅なの？土倉鉱山

NO. 4



この土倉鉱山は明治40年に銅鉱脈が発見され、同43年に田中鉱業（株）という会社の経営で銅が採掘されたのが始まりです。その後、昭和9年に日室鉱業が鉱山を買収し機械を取り入れ近代化された。その時の採掘場所は、今の鉱山跡より2kmほど奥（北）にありました。

しかし昭和12年に日支戦争が始まって地下資源の増産が必要になったことや、雪による度重なる災害を防ぐ為などから、山を下った現在の鉱山跡地となる所（R303の土倉出口附近）に新たに坑道が開かれました。

その後、全ての設備をそちらに移して本格的に操業されるようになり、昭和32年頃には200トン処理に拡張され順調に発展していくのだが、昭和38年の銅鉱石の貿易自由化による海外からの安い鉱石の流入、それに加えて低品質、などから採算が合わなくなり、ついには昭和40年に閉山という運命をたどる。最盛時には銅鉱年産1万8000トン、従業員やその家族を含めると1500人もの人たちでにぎわったという土倉鉱山のこの地も、60年間の歴史に終止符を打ち無人の地となるのである。

ぼくたちは小さな時からおじいさんおばあさんに土倉鉱山は歴史的遺産だと聞いているのでとうろくしました。土倉鉱山はいまでもたくさんの方が観光に来られていると僕たちは聞いています。当時1000人もの方が働いており、杉野の発展に大きく貢献しましたので登録します。